

I フィッシャーの投資哲学

「良い投資をより長く継続する。『超』成長株を買え、そしてそれ以外には手を出すな」

II フィッシャー流、最高の株を選び出す15のポイント

- 1、成長期の商品・サービスを有していること
→経営者が優秀で、技術革新や研究開発が活発に行われている会社を選ぶ。
- 2、新製品・新製法の開発を行う意志があること
→どんな市場でもいずれ飽和する。そのために新しい市場を開拓していく意志が必要。
- 3、研究開発の規模と比べて、どれだけの成果を出しているか
→研究費が総売上の何%を占めているか。
- 4、営業が平均以上の力を有していること
→製造技術や研究技術だけでなく、強い営業力を持っていること。
- 5、高い利益率を確保していること
→利益率の低い業界には手を出さない。
- 6、利益率を維持・改善するために何をしているか
→経営革新を進めているかどうか。
- 7、良好な労使関係を結んでいること
→転職率、賃金体系に注目する。
- 8、管理職の能力を引き出す環境を作っていること
→派閥主義ではなく、実力主義であること。
- 9、管理職に優秀な人材がいること
→ワンマンではなく、部下が活きる組織であるか。
- 10、しっかりとしたコスト分析と財務管理を行っていること
→経営者が緻密な財務管理と経営分析を行っていること。
- 11、企業運営において業界特有のスキルを備えていること
→特許、特殊技術、ノウハウなど、他社より進んだ技術力を持っていること。
- 12、収益に関して長期的な展望を持っていること
→取引先や顧客にきちんとした対応を行っていること。
- 13、増資をする必要があるかどうか確認する
→増資により1株あたり利益が減ってしまうので、注意が必要。
- 14、経営者は、良いニュースは言うが、悪いニュースには口を閉ざすタイプかどうか
→悪いニュースを隠そうとする経営者、会社は除外する。
- 15、経営者は本当に誠実か
→株主のことを考えているかどうか。

III 投資家が行うべきこと

投資家は「聞き込み」を積極的に行うべきである。元社員や顧客、取引先企業やライバル企業とのヒアリングを行う。その際に「15のポイント」について尋ねる。

また投資家は特に企業の製品研究に注目するべきである。奇抜な商品やサービス、そして何より研究開発を売り上げに結びつける経営手腕が、経営者に必要である。

IV いつ買うべきか

経済予測に頼らない。経済予測はどのエコノミスト、経済紙も行うが、そのほとんど（全てに近い）は全くあたらない。経済予測を元とした投資は行ってはならない。

買うべきは成長期にある企業である。成長企業は市場の先駆者であり、最先端である。その会社の株を買うべきである。

投資のタイミングは、ベストなのが新製品開発で一時的トラブルがあったとき。その時は株価も下がって買うには絶好のタイミングである。

V 何を買うべきか

優れた専門家、アドバイザーを選ぶことも重要である。特に投資家と同じ考えを持っている人物であることが望ましい。

投資家に大きな利益をもたらしてくれるのは大抵、小型株である。小型株に投資せよ。

資金に余裕を持って挑むことが重要であることは当然である（いちかばちかの勝負はしない）。

VI いつ売るべきか

株を売る理由は3つしかない。

- ・投資対象の選択を誤ったとき
- ・「15のポイント」を満たさなくなったとき
- ・より有望な会社を見つけたとき

である。だが、正しく選び抜いた株には売り時はないのである（永久保有）。

VII 配当の正しい考え方

無配が悪いというわけではない。社内留保を行い、再投資を行った方がいいときもある。つまり、有能な経営者にお金を持ってもらう方がいいのである。経営者が配当に関する方針が一貫していれば問題ない。

VIII 賢い投資家になるための5 don't

1、設立間もない会社には手を出さない

→2～3年の営業活動と、1年以上利益を出している会社を選ぶこと。

2、「店頭銘柄」というだけで判断しない

→「1部」や「店頭」は関係ない。良い株はどの市場にも必ずある。

3、「きれいなレポート」を判断材料にしてはいけない

→会社のイメージ作りが働いている場合が多い。レポートの表面よりも、レポートの中に書かれていることが大事である。

4、P E Rで判断しない

→成長力が高い会社は軒並みP E Rが高い。P E Rはあくまでも指標の1つであって、それに頼ってはいけない。これは他の指標に対しても同じである。

5、ちょっとした値段にこだわらない

→本当にいい株で、しかも現在の株価が割安なら「成り行き」で買うこと。「〇円になったら買う」と決め付けない。

IX さらに賢くなるための5 don't

1、行き過ぎた分散投資はしない

→行き過ぎた分散投資は目が行き届く。飛びぬけた投資先5～10社に絞って買う。

2、戦争を恐れてはいけない

→戦争は株価下落の一因であるが、戦争が起きようと起きまいと投資には関係ない。また、悲観論には耳を傾けない。

3、何の関係もない資料は無視する

→関係のない数字は無視する。株価の背景にある変化が数字よりも大事である。「過去」ではなく「未来」に注目する。

4、株価だけに注目しない

→ある値段になったら買うのではなく、何月何日に買う、と決める。

5、群集に飲み込まれない

→業種と企業、両方のイメージを抱き、事実と照らし合わせる。企業の状況を冷静に把握する。

まとめ

優れた投資対象には必ず優れた経営者がいる。10%や20%の小さな利益でなく、何年かで10倍、100倍になる会社を選ぶ。1株あたり利益率が大きく成長するような銘柄を選ぶこと。

参考文献：『フィッシャーの「超」成長株投資』（2000年）

フィリップ・フィッシャー（著）、荒井拓也（訳）、フォレスト出版